VOL.126

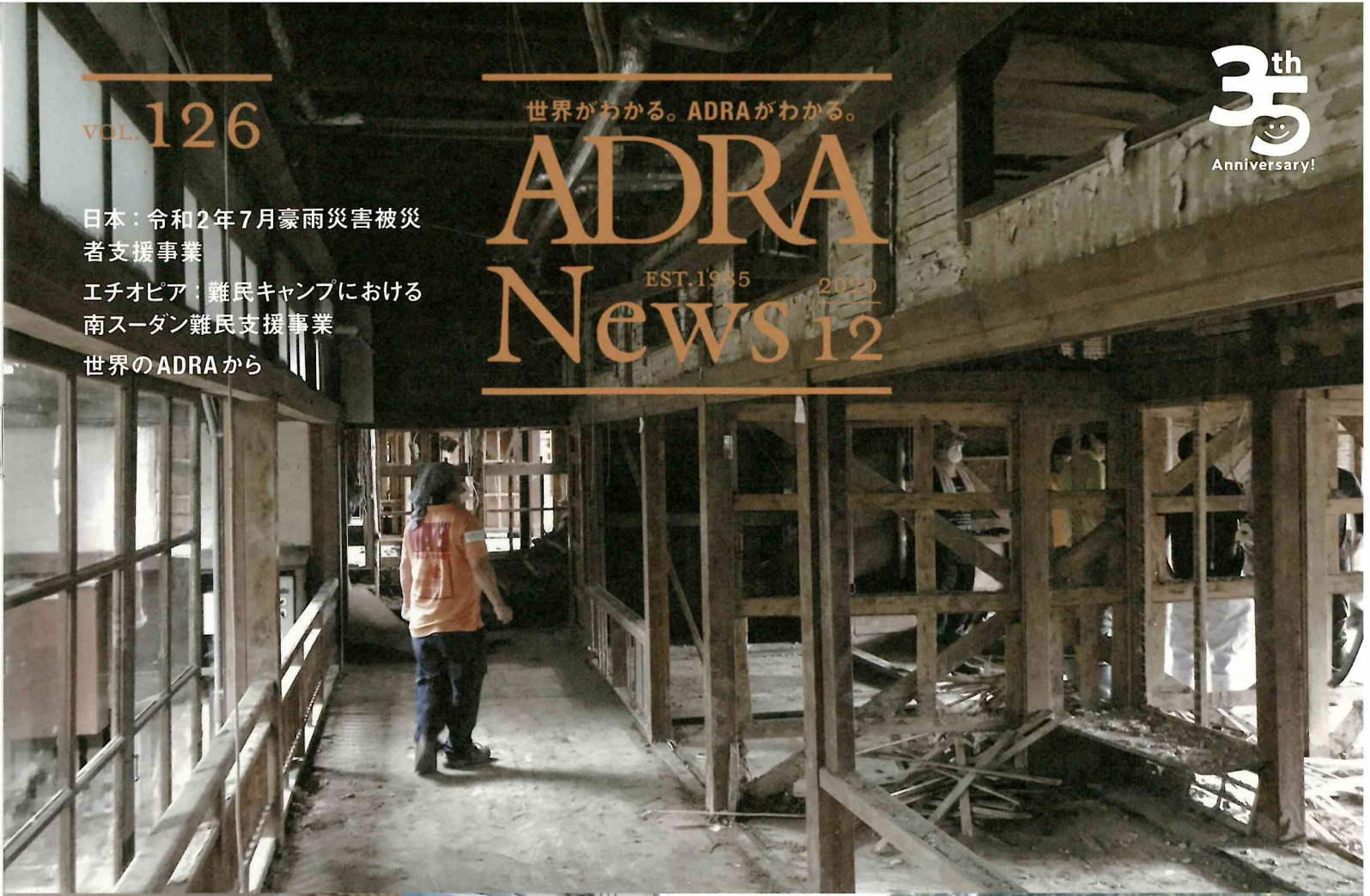
世界がわかる。ADRAがわかる。

ADRA News 12

EST.1985 2020

3th Anniversary!

日本：令和2年7月豪雨災害被災者支援事業
エチオピア：難民キャンプにおける南スーダン難民支援事業
世界のADRAから



コロナ渦中でもできる支援を

上：人吉市内の被災した家屋　下：大柿地区で物資の配布を協力してくれた住民の方と現地ボランティア

ADRA

ADRA Japan事業マップ

ADRA Japanは、世界最大規模の約130か国と地域に支部を持つ国際NGOであるADRAの日本支部です。
人種・宗教・政治の区別なく支援活動を行うことをモットーに、海外および日本国内の各地にて様々な活動を行っています。

ETHIOPIA エチオピア

ガンベラ州のクレ難民キャンプにおける衛生事業

→ p.6

ZIMBABWE ジンバブエ

教育環境改善支援事業

ロックダウン規制により閉鎖されていた学校が9月末から最高学年（7年生）を皮切りに再開されました。写真は、小学7年生が保護者の作ったマスクを着用し、昨年完成した新校舎で授業を受けている様子です。他学年の授業も10月末、11月初めと順次再開されました。そして、「特別開設クラス」も活動を再開しました。

クシンガ小学校の7年生

NEPAL ネパール

新生児・小児の保健環境改善支援事業

事業地であるバンケ郡では、新型コロナウイルス感染症流行が収束しておらず、研修実施時には体温測定やマスク着用等の対策をとっています。感染対策を講じながら、ぽかぽか基金によるベルバールヘルスポスト建設事業を完了しました。

完成したベルバールヘルスポスト

教育支援〈ナマステ基金〉事業

新型コロナウイルス感染症対策事業

形成外科医療チーム派遣事業

※今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて実施できませんでしたが、来年度に向けて準備中です。

ADRA Japan

ADRA International（世界本部）

JAPAN 日本

令和2年7月豪雨災害 被災者支援事業

→ p.4-5

令和元年台風15号19号千葉県被災者支援事業

MYANMAR ミャンマー

教育支援事業

カレン州少数民族の子どもたちの教育環境を整備するために、教育支援事業を実施しています。新型コロナウイルス感染症の拡大が収まらない中、教員や住民に対する学校維持管理研修をオンラインで実施するなど、臨機応変に事業を進めています。

オンラインでの事業説明

※ジンバブエ、ネパール事業は皆さまからのご寄付のほか、日本NGO連携無償資金協力の助成を受けて実施しています（ネパール事業には医療法人社団崎陽会 日の出ヶ丘病院「ぽかぽか基金」からのご支援もいただいております）。ミャンマー事業は皆さまからのご寄付のほか、（公財）イオンワンパーセントクラブからの助成を受けて実施しています。エチオピア、令和2年7月豪雨災害被災者支援事業は皆さまからのご寄付のほか、（特活）ジャパン・プラットフォームからの助成を受けて実施しています。

● ADRA Japan実施事業
■ 世界のADRA支部がある国と地域

ADRA

ADRA JAPANの活動

2020年12月号では、熊本県における令和2年7月豪雨災害被災者支援事業をピックアップしてお伝えいたします。
また、エチオピアで1年ぶりに再開した南スーダン難民への水衛生支援事業についてもご報告します。

1

2

3

4

5

6

7

1人吉市中神町大柿地区の被災した家屋　2浸水後の家屋内は見るに堪えない　3大柿地区は2階屋根まで浸水　4被災家屋の修復には長い時間と人手が必要　5屋根の瓦も流された　6被災した家屋を乾燥・洗浄するための作業中　7人吉市災害ボランティアセンター

COLUMN

球磨川と共に生きる

山上さんは人吉市中神町大柿地区に生まれ育ち、長く高校の先生をしていました。引退後はご自宅を農家民宿とし、地域の自然や文化を紹介してきました。「私たちは、球磨川とともに育ってきました。昔は、川に投網を放つと引き上げられないくらいたくさんの魚やウナギが獲れました。」とおっしゃっていました。今回のような大規模な洪水に見舞われても、「どうしたら、この先も球磨川とともに生きていけるのか」を地域の住民の方々は考えていると言います。「今後2年間は仮設住宅での生活になりますが、光のない中に光を見いだして、前を向いて生きていきます」と語っておられました。

県内在住の教会員の方と大柿地区住民の方

JAPAN 日本

令和2年7月豪雨災害被災者支援事業

かつてない大規模の洪水災害

令和2年7月豪雨は、かつてない大規模の洪水災害をもたらしました。レーダーの画像解析によると、2017年に甚大な洪水被害を引き起こした九州北部豪雨の数倍規模の線状降雨帯が最長で12時間も継続的に発生し、熊本県の球磨川流域に大量の雨を降らせました。これまでも球磨川では洪水が発生してきましたが、今回の洪水では2m以上の浸水が相次ぎ、最大浸水深は7mを超えたと報道されました。

新型コロナウイルス感染防止のため県外から支援に入れず

熊本県人吉市だけでも被災家屋は4,000件以上、その7割以上が床上の浸水被害でした。復旧するには多くの作業と時間が必要になります。それには多くの人手が必要になりますが、新型コロナウイルス感染症防止のために県外からの支援者が被災地に向かうことは自粛せざるを得ませんでした。そのため、復旧作業が大幅に遅れており、10月の時点で、「復旧・復興の現状は、まだ2割程度しか進んでいない」と人吉市市長が述べていたと報道されました（『西日本新聞』、10月4日）。

連携によって実現した物資支援

ADRA Japanは発災当初は現地入りを自粛し、情報収集に努めていました。発災から1か月近く経った8月のはじめに、ADRA Japanの関連組織であるSDA熊本教会の教会員の方から、次のような連絡を受けました。「人吉市の大柿地区では、2階の屋根まで達する洪水で大変なことになっているのに、ボランティアがいない。猛暑の中、住民の方々が毎日片付けを続けている。だが、洪水ですべてが流されてしまって着替えもない、マスクやゴーグルもない。片付けに必要な物資を届けたいが、なんとかならないか。」

この支援要請を受けて、ADRA Japanは、SEMA（緊急災害対応アライアンス）という支援ネットワークを通じた物資支援を開始しました。

9月から被災住宅復旧のための支援事業を開始

ADRA Japanは人吉市の建築士が立ち上げた団体と、被災家屋復旧をする専門家との協働で、人吉市の被災家屋復旧をサポートする事業を（特活）ジャパン・プラットフォームの助成を受けて開始しました。この事業では、浸水した家屋のカビ除去やリフォームなどについての専門的な相談に対応し、家屋復旧に関する講習会を開くなど、遅れている復旧・復興を後押ししていくことを目指しています。

※令和2年7月豪雨被災者支援事業（人吉）は、皆さまからのご寄付のほか、（特活）ジャパン・プラットフォームの助成も受けて実施しています。

COLUMN

オンライン報告会を実施

9月18日にこの事業の報告会を実施し、人吉市中神町大柿地区の現状と現地在住者の声をお伝えしました。報告会には支援団体に所属する方、企業にお勤めの方、現地の状況に関心のある方など30人が参加しました。今後、第2回目の報告会も実施する予定です。

オンライン報告会でのインタビューの様子

ADRA Japanを支えてくださる方をご紹介します！

アドラのチカラ

世良田和幸さん

医療法人社団相和会
渕野辺総合病院　病院長

――ADRA Japanをお知りになったきっかけは何ですか？

1994年に、形成外科医の吉本信也先生から、ネパールでの口唇口蓋裂医療チームに誘われたとき、初めて知りました。

――ADRA Japanとの関わりについてお書きください。

1995年に最初のチームをネパールに派遣し、私自身は翌年から実際にチームに加わり、ネパールでの医療に参加しました。それ以来、20年間に17回参加し、様々な貴重な経験をさせて頂きました。

――ADRA Japanの魅力について、ADRAと関わっていて良かったと思う時があれば、お書きください。

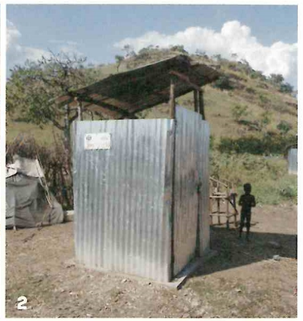
私自身はネパールでの活動しか知りませんが、ネパールの事業に関わったお陰で、アフリカを始め世界各国での支援活動を見聞きし、医療関係のNGOしか知らなかった私にとって、日本にもこのような活動をしている団体があることを知り、感激しました。それ以来、ADRA Japanをはじめとする、様々な日本からの国際NGOに目を向けることができるようになりました。

――まだADRAのことをご存じない方へのメッセージをお願いします。

ADRAは、第二次世界大戦後、いち早く日本に支援物資を送ってくれました。現在、ADRA Japanは、世界130か国以上のADRA支部と連携し、各国の開発支援や緊急支援活動を行っている国際NGOです。日本国内には関連機関として、小学校から大学までの教育機関や東京衛生アドベンチスト病院などの医療機関があり、国内で災害が発生したときには、いち早く食料や毛布などの支援物資とともに駆けつけ、地域の方々への生きる力を与えています。

――ADRA Japanへのメッセージをお願いします。

私自身は本来麻酔科医で、チーム医療の最たるものと思われる手術の要となるという自負がありました。日本国内での医療しか知らなかったら、決して体験できなかった国際医療チームに参加させていただき、ネパールのこども達の笑顔を見たいがために長い間参加することになりました。多くの笑顔と様々な貴重な経験をさせて頂き、本当に感謝しています。



1手洗いキャンペーンの様子　2 ADRAが設置した世帯別トイレ

ETHIOPIA エチオピア

エチオピアのクレ難民キャンプにおける南スーダン難民への水衛生支援

エチオピアには現在、約35万人の南スーダン難民がおり、そのうちクレ難民キャンプには約45,000人が暮らし、そのうち女性と子どもが人口の80%を占めています。しかし、彼らが安心して使用できる世帯ごとのトイレ（世帯別トイレ）の普及率は40%と低く、十分ではありません。そのため、やむを得ず野外排泄をしたり公共のトイレを使用したりするのですが、危険が常に伴います。また、野外排泄はハエを媒介とした感染症を難民キャンプ内に発生させてしまう危険があります。

現在、ADRA Japanは難民にも参加してもらいながらトイレの建設を実施しています。世帯別トイレは家から距離が近く、施錠もできるため、女性や子どもが安心して使用できます。また、障がいのある難民向けには車椅子でもトイレに入れるように、バリアフリートイレの建設も進めています。

難民は、もともと手洗いをあまりせず、野外排泄をすることに慣れていました。このため、なぜ手洗いとトイレの使用が大事なのかを知ってもらうための衛生啓発も、世帯別トイレ建設と併せて実施しています。

また新型コロナウイルス感染者はクレ難民キャンプでも16名確認されているため、難民自身が衛生啓発員になり、新型コロナウイルス感染症対策キャンペーンなどの活動を行っています。

クレ難民キャンプは開設から6年が経過しました。難民がキャンプの衛生状況を自ら改善し、より衛生的な生活を自立的に送れるように引き続き支援を行っていきます。

世帯別トイレ用の穴を掘削する難民

※この事業は、皆さまからのご寄付のほか、（特活）ジャパン・プラットフォームの助成も受けて実施しています。

世界のADRAから

130か国以上の国と地域に支部を持つADRAは世界各地で事業を実施しています。数ある事業の中から、活動の一部をご紹介します。

ARMENIA アルメニア　AZERBAIJAN アゼルバイジャン

アルメニア・アゼルバイジャン紛争の被災者を支援

アルメニアとアゼルバイジャンは長年にわたりナゴルノ・カラバフ地域をめぐって対立をしています。そのような中、9月27日には近年で最大規模の武力衝突が起き、両国で少なくとも220人の死者が出ました。また、地元当局によると、激しい砲撃とミサイル攻撃により、ナゴルノ・カラバフとその周辺地域の家屋や建造物、その他のインフラが破壊されました。

ADRA Armenia（アルメニア支部）は戦闘が勃発した翌日に調査を行い、紛争地域で食料のニーズが高いことを把握しました。そこで教会のボランティアと一緒に100袋の食料を用意し、大規模な砲撃を受けたナゴルノ・カラバフ最大都市のステパナケルト、および紛争地域の多くの住民が避難しているアゼルバイジャンに最も近い都市ゴリスの避難民に食料を配付しました。

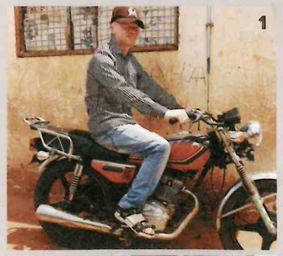
一方、アゼルバイジャンでも国境付近のナゴルノ・カラバフ地域に住む人々を支援するため、ADRA Azerbaijan（アゼルバイジャン支部）は暖かい服、薬、水を用意しました。しかし、安全が確認できるまで待ってほしいと政府から言われているため、許可が下り次第届ける予定です。

ADRAはこの地域で活動している数少ない国際NGOの一つであるため、この支援活動は特に重要です。今後、戦闘が長期化する可能性もあるため、変化する状況に対応できる準備を進めていく予定です。

1被災したアルメニアの住民　2 配付する食料袋の詰め込み作業　3.4 配付した食料の一部　5 爆風の被害を受けた家屋

TANZANIA タンザニア

「アルビノ」の人たちに向けた皮膚がん治療を実施



1バイクに乗るコスタさん　2 シミが消えた腕を見せるコスタさん

タンザニアでは、3万人以上の人々が「アルビノ」の遺伝子疾患を抱えていると推定されており、他のどの国よりもはるかに高い割合です。そして「アルビノ」を持っている人の皮膚がんリスクは一般の人よりも高いです。ADRA Tanzania（タンザニア支部）はタンザニアアルビノ協会とパートナーシップを結び、タンザニア政府の支援を受けて、皮膚がんの早期発見と治療を目的とした事業を実施しています。また、治療後の患者には皮膚を保護するための日焼け止めローションや帽子などを配付しています。患者の一人、リチャード・コスタさん（写真）は他のクリニックで治療を受けましたが、経過が良くありませんでした。しかしADRAが実施している凍結手術の後、順調に回復しています。「ADRAの皮膚がんクリニックに感謝しています。私の肌は今、とても滑らかで健康的です。見てください！ 以前のようなシミはもうありません」とコスタさんは自分の腕を見せて言いました。

本事業は2020年1月に開始され、すでに290人を支援しています。

※現在、ADRA Japanではこのページでご紹介している2活動への事業指定寄付は承っておりません。

処分品を提供するだけで社会貢献になります！

ご家庭や会社で不要となった物品を「お宝エイド」へ送付いただくことにより、ADRAの活動を支援することが可能です。押入で眠っている下記のような物品がございましたら、ぜひご寄付いただけますと幸いです。

物品寄付の受付品目

●箱や袋などの付属品やギャランティーカード、鑑定書も一緒にお送りください。
※上記がない場合でも安心してお送りください。

●貴金属は状態に限らずお送りください。
●壊れていても1点からでもお気軽にお送りください。

- 金・貴金属 ※貴金属は状態に限らずお送りください。
- 切手
- ハガキ・年賀状 ※未投函・書き損じ可
- ブランド品・時計
- 図書券・テレカ・金券 ※有効期限内に限る
- 勲章・金貨 貨幣セット
- 骨董品 刀剣・刀装具
- 絵画・掛軸
- ダイヤモンド・宝石
- 懐かしのおもちゃ ブリキ玩具
- ブランド食器 ※マイセン／ウェッジウッド／バカラ等
- DVD・ゲーム
- 楽器

応援メッセージ

引越しで不用品が出た時、ADRAの「お宝エイド」のチラシを見ました。着払いで送料の負担もないので、当てはまる品目があるなら、捨てるより寄付してみようと思いました。チラシには何を、どうやって、どこへ送ればいいのかがわかりやすく書かれており、気軽に社会貢献活動のお手伝いができました。

森田美江さんより

お取り扱いできないもの ●換金性の低いもの ●パソコン、プリンター、衣類、着物、家電、家具、ぬいぐるみ、人形など

「お宝」寄付の方法

STEP 1

「お宝」を梱包します

ご家庭に眠っていて、寄付してもよい「お宝」と下記贈与承諾書を一緒にお詰めください。ぜひ、ご近所の方やご友人にもお声掛けし、支援の輪を広げてください。

STEP 2

ゆうパック（日本郵政）の着払いでの集荷を依頼します。

1. 下記連絡先まで集荷依頼の電話をかけ、「着払い伝票」を依頼します。
2. 伝票を右の図のように記入します。

送料無料

STEP 3

活動資金として振り込まれます

お宝エイド受付センターに到着後、査定し、通常査定額に10%※上乗せされた金額が特定非営利活動法人ADRA Japanへ活動資金として振り込まれます。

※金券等、一部商品を除く

日本郵政が玄関先まで引取りに伺います！

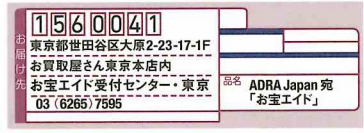
日本郵政（ゆうパック）集荷依頼（無料通話）

0800-0800-111 左記までお電話いただき集荷依頼をお願いいたします

年中無休 AM 8：00 ～ PM 9：00

着払い伝票の記入方法

「品名」の欄に必ず「ADRA Japan 宛『お宝エイド』」扱いと記載



※「お宝エイド」では特定非営利活動法人ADRA Japanへ寄付される物品の受取代行をしています。
※お品物が到着した時点で、特定非営利活動法人ADRA Japanへ寄付されたものとされ、**その後のご返却は一切できません**のでご注意ください。
※宝石等の貴重品は書留、その他の高価なものはセキュリティサービス付きゆうパックでお送りください。
※査定額の報告は各支援先団体にお問い合わせください。

こんなもの送っていい？ や送り方の問い合わせは

お宝エイド 受付センター・東京

〈東京都公安委員会 第303291208982 号〉

〒156-0041
東京都世田谷区大原2-23-17-1F
お買取屋さん東京本店内
TEL:03-6265-7595

郵便振替、クレジットカード、銀行振込等によるご寄付も常時受け付けております。〈郵便振替〉口座番号:00290-2-34169 加入者名:（特活）ADRA Japan

お問い合わせ先 いただいたご寄付はは税制優遇の対象となります。

TEL: 03-5410-0045 E-mail: support_adra@adrajpn.org ホームページ : http://www.adrajpn.org/

ADRA Japanは「人間としての尊厳の回復と維持」を実現するため、キリスト教精神を基盤として、人種・宗教・政治の区別なく世界各地で国際協力活動を行っています。

ADRA News 126号 2020年12月1日発行

発行人 浦島 靖成
発行 特定非営利活動法人 ADRA Japan（アドラ・ジャパン）
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
TEL：03-5410-0045 FAX：03-5474-2042
E-mail：support_adra@adrajpn.org
Facebook：adrajapan Twitter：ADRA_Japan
Instagram：adra_japan

団体概要

法人名	特定非営利活動法人 ADRA Japan
所在地	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1（JR原宿駅 徒歩5分、東京メトロ明治神宮前（原宿）駅 徒歩2分）
代表者	柴田 俊生（理事長）
事務局責任者	浦島 靖成（常務理事／事務局長）
設立年月日	1985年3月30日

デザイン：細山田デザイン事務所

Justice, Compassion, Love

ADRA